

佳作

「AIが描く未来」

— AIを通して見た人間らしさ —

淑徳巣鴨高等学校 二年

村野文崇

私は、この主題をみて、AIが出来る事や開発されていく分野は何だろうと考えてみた。その場合AIの特性である正確な作業や継続能力を考えると様々な分野でのAIの活用が見込まれる。そして、人間の仕事のうちAIに取って代わられていくものが今後増えていくのではないかと思った。

実際、スーパーなどだけでなく衣類量販店などの販売員や官公庁の窓口業務などの職業が、すでに機械に取って代わられてつつある。つまり、販売員の代わりに店のホームページでコーディネート提案と購入者自身がセルフレジを利用したり、区役所での住民票の写し交付等の業務を自動交付機で行う等の対応が行われている。今後、このような分野については、ますます機械化、そしてAI化が進んでいくに違いないと思

う。また、今は想像もされていないだろうが、弁護士や研究者や医師などの知的な職業も、膨大で多様なデータの検索や分析を必要とすればするほど、AIがその本領を発揮するかもしれない。現に、以前理系大学のオープンキャンパスに参加した時、ある研究者が「基礎研究の実験と分析などは、パソコンと簡易なロボットが行う時代です。」という趣旨の発言をしていたのを聞いて驚いた。

次に、今、私がAIにして欲しい事とは何だろうと考えた時、二つの事が思いうかんだ。

一つ目は、状況と危険の度合いを数値化し、正しい判断を必要とする危険物の除去などの作業である。例えば、発展途上国、特に紛争地域には、まだ多くの地雷が埋まっていると言われている。その撤去にドローンを活用しようとする流れがある。つまりドローン自身が爆発物を探索しながら、分析し、除去・破壊するというものである。今まで多くの犠牲を出し、なかなか解決出来なかった過去の負の遺産を、人間は誰も傷つくことなしに、消し去ってくれる事がAIならできると、その重要性を改めて感じている。

二つ目は、AIが政治やスポーツといった分野で重要な職

を果たす事だ。これは、ちょっと突飛な発想の様に思われてしまうかもしれないが、AIが将来さらに進化して、人間と同様の状況認識、判断等を行う事が出来るようになった場合を想定している。今メディアを騒がしている汚職事件や様々な問題行為があまりに多く、世の中もその事について慣れてしまい、解決出来ないだろうと半ば諦めかけているように思う。発想を変えてみれば、かえって私利私欲のないAIならば、不正をしないであろうから、この様な事件を減少させるのではないのかという事である。意外とAIが担当する仕事として合っているのではないか。しかし、これらの職種については、人間であることが、物事や状況に柔軟に対処し、より良い社会を導くのではないかと思う面もある。正しい判断とは？人間らしい考え方は？AIにその様な判断なり考え方を学び取っていくことができるのだろうか？

今回、AIの事を考えれば考えるほど、逆に人間とは何なのだろう、人間らしい事とは何なのだろうと、「人間らしさ」について考えさせられてしまった。人がAIに取って代われないものは何か。経験で得たもの、数値化できない職人の勘のようなもの、創造性、感情・感性など、未だ多くあるよ

うに思う。しかし、技術が進歩すれば、それらもAIが学習できるようになるかもしれないという気持ちを持つようになった。もし、人々が思想や精神的な成熟を有しないまま新しいAIが、国内の特定のグループや自国の事しか考えない指導者により乱用されるようになれば、今までの歴史で示されたように、国内での、また国家間での貧富の格差や紛争を招く恐れがあると思う。AIの未来を考えれば考えるほど、それを作り利用する人間の側の精神的な成熟の重要性を考えさせられた。その精神面の成熟へ導く教育や社会的活動が日本を含めどれほどの国で行われているのだろうか。

今、世間がAI関連の技術開発に熱中する中、こうして開発された技術を利用する側の世代に属する私達はどう向き合えば良いのか。常にAIの発達に合わせ、「人間らしさとは何か？」「人間にしかできない忘れてはいけない事は何か？」を自らに問いかけながら、技術進歩を図っていく事だろうか？それが正しい方向であったとして、それを実践できれば、SF映画などで出てくる人間がAIと理想的に共存する未来に出会えるのだろうか。もしそうであれば、その理想的な未来に私もぜひ生きてみたいと思う。